*　*　*　*

本邦産の *Volvulina* 属に関する詳細な報告はいまだない。筆者は神奈川県葉山町長柄にある水田より採取した *Volvulina steinii* Playfair の形態と生殖の過程を培養条件下で詳細に観察した。その結果は Pocock (1953), Stein (1958), Carefoot (1966) の観察結果と基本的には一致したが, vegetative phase のピレノイドと接合子の発芽に関しては異なる結果を得た。今回, 培養の age が進行すると *V. steinii* の丼型の葉緑体の縁の部分に通常1個のピレノイドが形成される事が確認された。この形質は Carefoot (1966) が用いた *V. steinii* の株にも認められたので, 本種が有する特徴と考えられる。また, 接合子の発芽において gone cell は接合子の壁より2鞭毛をつけてぬけ出し, 外側にゼラチン様の膜をつくる。gone colony はその後 gone cell からひきついだ2鞭毛で泳ぎながらゼラチン様膜の中で細胞分裂をくり返す。

□佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・冨成忠夫（編）: **日本の野生植物　草本** (Satake, Y., J. Ohwi, S. Kitamura, S. Watari & T. Tominari (eds.) : Wild flowers of Japan, herbaceous plants (including dwarf subshrubs) 259 pp. pls. 224. 1981. 平凡社 ¥13,000. 待望久しい著作である。冨成忠夫氏の植物写真集がでるとは大分評判であったが, それが今度姿を表わしたといえる。日本全土の高等植物の中で草本約2,800種を一々写真にとり, 4～5点ずつ1ページに納め, 本文8ページ毎にプレート8ページを挿入してまとめてある。本文は合弁花類, 離弁花類, 及び単子葉類として3冊にまとめ, 科の排列はエングラーの Syllabus (1964) に依り, まず科の特徴, 各属の検索表, それに属毎の記載, 種の記載と並べてある。記載についても, 写真についても大勢の学者や専門家がタッチしているので中々充実している。アメリカで出版されたカラー図譜に刺激されての出版というが, それとは数等の素晴らしさを持っている。草本を主としているが, 中にはツツジ科のようにツガザクラ等一見草本に見えるものも含んでいて便利である。殊に写真は全部カラーで, 主に開花期を基準にしているが, 葉の面白い姿や果実等を折に触れて写していて, このプレートをみるだけでも中々に役立つ。写真は背景と被写体との混淆がとかく問題になるが, その点でも大変に苦心している。この大冊の出現を祝し, その完成を祈るものである。　(前川文夫)